



令和5年(2023年)第3週 2023年1月16日(月)~2023年1月22日(日)

熊本市 感染症発生動向調査 速報



●RSウイルス感染症が増加しています

◆RSウイルス感染症について

RSウイルスによる呼吸器の感染症で、年齢を問わず、生涯に何度も感染と発病を繰り返します。発症の中心は0~1歳児で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1回は感染すると言われています。



◆どんな病気？

・**症状**……発熱などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症ですみませんが、低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある場合は重症化のリスクが高いと言われています。また、初めての感染では症状が重くなりやすいと言われており、特に乳児の早い時期(生後数週間~数ヶ月間)に初めてRSウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

・**潜伏期間**……2~8日程度(典型的には4~6日)です。

・**感染経路**……感染者の咳やくしゃみのしぶきを吸い込む飛沫感染、ウイルスが付着した手や物(手すり、おもちゃ等)を触ったりなめたりすることによる接触感染があります。2歳以上で再感染・再々感染した場合に、症状としては軽い咳や鼻汁程度しかみられず、保育所に平常時と変わらず通っている場合があります。また、保護者や職員が感染することもあります。このような場合、これらの人が感染源となって、周囲に感染が拡大することもあります。

・**流行期**……主に秋から冬にかけて流行します。しかし、最近では夏季にも小流行があり、注意が必要です。感染した場合、特効薬はありませんので、治療は基本的には対症療法になります。

◆予防法や対策は？

手洗い、アルコール製剤などで手指を衛生的に保つ事です。特に子どもを預かる施設では、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどは、アルコールなどでこまめに消毒するようにしましょう。

また、流行状況を常に把握しておくことが重要で、流行期には、0歳児と1歳以上のクラスは互いに接触しないよう離しておき、互いの交流を制限することで、重症化しやすい乳児への感染を予防することができます。特に、呼吸器症状がある年長児が乳児に接触することを避けましょう。罹患した場合の登園のめやすは、「呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと」です。参考文献:保育所における感染症対策ガイドライン(2021(令和3)年8月一部改訂)

厚生労働省ホームページ「保育関係(保育所における感染症対策ガイドライン)」QRコード



期 間		2023年 2週		2023年 3週	
		1/9~1/15		1/16~1/22(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		299	11.96	288	11.52
RSウイルス感染症		10	0.63	24	1.50
咽頭結膜熱(プール熱)		3	0.19	8	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0	0.00	3	0.19
感染性胃腸炎		82	5.13	87	5.44
水痘(みずぼうそう)		0	0.19	0	0.00
手足口病		2	0.13	4	0.25
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		9	0.56	7	0.44
ヘルパンギーナ		5	0.31	6	0.38
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		4	0.80	4	0.80
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00